やまびこ

日本キリスト教保育所同盟（題字　前理事長・木村 量好）

THE ASSOCIATION OF CHRISTIAN NURSERIES IN JAPAN

事務局　かがわ子ども・子育て支援センター 神愛館　〒762-0056　香川県坂出市中央町8番58号
発行責任者　理事長　新井　　純

「祈りとは」

アシュラムセンター 主幹牧師　榎本　恵

**「祈ること　それは、自分と向き合うこと。祈ること　それは誰かと向き合うこと
祈ること　それはあなたと私の中にある主なる神と向き合うこと」**

「キリスト教信仰入門　祈り」これが日本キリスト教保育所同盟の新任オリエンテーションで私に与えられたテーマです。私は、祈ることは、小さないのちに向き合う保育士にとっても、小さないのちを育む保護者にとっても、そしてその小さないのちそのものにとっても、大事なことだと思っています。

なぜなら、それは見えないものと向き合う大切な時だからです。忙しい一日の一瞬の時間でも、目をつぶり、静かに祈る時を持ってみてください。「祈ること　それは、自分と向き合うこと。祈ること　それは誰かと向き合うこと　祈ること　それはあなたと私の中にある主なる神と向き合うこと」なのです。

1960年代、環境破壊の危険性をいち早く警告した「沈黙の春」の著者レイチェルカーソンは、その死の翌年に「センスオブワンダー」という美しい本を出版しました。メイン州の海辺の別荘で幼い甥のロジャーと過ごした、一夏の経験を綴ったエッセイ。彼女はその中で、砕け散る大きな波しぶきや、森の中のシダ類、そして岸辺の砂に潜る小さなカニ、それら全ての背後に、「何かいいあらわすことのできない、自然の大きな力に支配されていることをはっきりと感じ取りました」と書くのです。そして、「残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまえに、澄み切った洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直感力を鈍らせ、あるいはまったく失ってしまいます」と嘆き、わたしたち大人も、大人になるまえの子どもも、この「センスオブワンダー」、すなわち「人間の力を超えた存在を認識し、おそれ、驚嘆する感性を育み、強めていかなければならない」というのです。

祈りとは、あるのかないのかわからない神に向かって、願い事を請求書のごとく並べ立て、要求するのではありません。また、祈りとは、意味もわからない言葉をただ呪文のようにくどくどと唱えることでもありません。

祈りとは、わたしたちが、目に見える世界だけを世界とせず、自分の力だけで生きているのではなく、見えないけれども存在する方を知り、力ないようで最も大きな力を持つ方に出会うことなのです。

毎日の忙しい仕事や生活の中で、疲れ果てている時、目の前にある大きな壁や困難な問題にぶつかって、意気消沈している時、そして自分の思っているようには進まない現実に嫌気がさしてしまう時、どうぞ、静かに、目を閉じて、そんなあなた自身を見つめ、関わりあう一人ひとりを思い起こし、それらすべての背後にある、神そのものと向き合い、あなたの本当の気持ちを語ってみてください。

その時、不思議と引きつっていた顔が緩み、ざわめいていた心の中が落ち着きを取り戻し、失ってしまっていた内なる力が湧いてくるでしょう。それこそが、わたしたちの祈りなのです。

日本キリスト教保育所同盟

第５８回　夏季保育大学

「命に寄り添い、地域に生きる」

～被災地の現状と取り組みに聴く～

仙台で開催される第58回日本キリスト教保育所同盟夏季保育大学へのお誘い

第58回夏季保育大学実行委員長　明　石　義　信

主の御名を賛美致します。

皆様は、それぞれの保育の現場で、今日も力一杯子ども達の為に頑張っておられることと思います。

さて、今年度の夏季保育大学は東北に会場を移して、東日本大震災から５年を経た歩みを、皆さんと共に考え合い、感じ合う一時になればと願っております。

４月に、熊本・阿蘇・大分の地震が起きましたが、それは誰も想像できなかった事でした。災害は、「いつ」「どこで」「どのような形で」起きるか分からないということを改めて感じさせられる出来事でした。今回の地震の様子を見て、東北の地元の保育士達は、５年前の記憶が昨日のことのように、鮮明に蘇ったと言います。

あの時も、今回も、多くのインフラが破壊される出来事が起きて、マニュアルも機能せず、情報の伝達も出来ない事態に追い込まれてしまうことが、繰り返されたのです。このような危機の時には、近くで声を掛けてくれる人の存在が力を発揮します。それらの人々によって命が救い出され、生きる力を与えられるという場面が多く見られました。

今も続く放射線に対する不安と向き合いながら、津波によって流された傷跡を目にしながらも子ども達の成長の日々に寄り添う東北の姿を、その場所に立って共に考えてみる時を持ってみては如何でしょう。

現在は、美しい風景を取り戻した仙台の松島が会場となります。

災害と復興との間で、目に見える変化の裏側で、人々が何を目指して頑張ってきたのかを垣間見ることも出来るのではないかと思います。

新鮮な魚介類や仙台の牛タンが皆さんを待っています。

著名なミュージシャンによるミニコンサートも用意されています。

様々な地域から集まってきた人々との、テーブルを囲むひとときの会話中にも、日本キリスト教保育所同盟の保育の謎を解く鍵が隠されているかも知れません。

東北地区には、日本キリスト教保育所同盟の部会はありませんが、保育に係わる地元の人間が協力し合って、今回の準備をしております。

是非、この場に足を運んで見ては如何でしょうか。

私たちは、心よりお待ちしています。

キーワード： 平和	
園 名： あびこひかり保育園 地区名： 大阪地区	氏 名： 川瀬真澄（保育士）

エピソード：

「Aちゃんの思い」

（背 景）

Aちゃんは4歳児の男の子。5歳児の兄がいる。0歳からの入園で、現在は4・5歳児合同クラスに兄と共に在籍している。電車遊びが好きで、室内ならブロックで長い電車を作り、園庭では、おもちゃを電車に見立てて並べて遊ぶことが多い。電車を眺めることが好きな様子で、時々走らせて楽しんでいる。

お餅つきの日や運動会などの行事の日、また、違うクラスに用事に行く時など、その場に入ることを拒んだり、入ろうとしない様子が見られた。「ぼく、しない」と一旦は拒否するものの、友だちの様子を見たり、状況の説明をすると納得し参加したりする姿も見られた。見通しがつくと安心するのだなと思った。

「保育園に行くのはいや」という日もあった。でもなぜ、突然Aちゃんがそういうのか、お母さんもわからず困っている様子だった。私も、なぜAちゃんが登園を嫌がるのかわからないままだった。保育園を嫌がる時は、部屋の外にいるカメの隣りに座っていると、落ち着きを取り戻すのか、自分から部屋に入ってくることもよくあった。

この日も門を入ったとたん、部屋の外で「(保育園) いや。おかあさんがいい。かえる。」と、部屋に入るのを嫌がっていた。

（エピソード）

保育室で他児と遊んでいると、Aちゃんの兄と母が保育室に入ってきた。4・5歳児合同クラスなので、Aちゃんもいるはずなのに姿が見えない。『Aちゃんはどうしたのかな？今日も嫌なことがあったのかな？カメの隣りにいるのかな？』と私は思った。以前、園までの道すがら、赤信号を回避するために、いつもと異なる道順を進んだ時に不安定になり、登園を嫌がったことがあったからだ。

お母さんはAちゃんの朝の用意をしている途中、カーテンを開けて窓越しに外を見た。私は今日も何か嫌なことがあったのかと問う意味で、お母さんに「Aちゃん外にいますか？」と尋ねると、お母さんは「うん、そこに」と答えた。その応え方に私は母がしんどさを感じているように思った。Aちゃんは雪が降るかもしれない寒さの中、門を入った所にいるままだ。私は心配になり外へ出た。そして、「Aちゃん寒いな」とAちゃんに言葉を掛けた。Aちゃんは私を見た後、

視線を逸らせた。『何か嫌なことあったん？』という意味で「どうしたん？」と続ける。Ａちゃんは反応することなく庭を見ていたので、しばらく様子を見ることにした。少しして、Ａちゃんの用意を済ませたお母さんがＡちゃんの傍に来て「Ａちゃん、お部屋に入ろう」と言葉を掛けた。Ａちゃんは「ぼく…」と言いながら、お母さんと私に背を向けたままうつむいた。お母さんは続けて「Ａちゃん、かるたあるで。パズルは？」と、Ａちゃんが最近気に入っている遊びに誘い掛けたが、やはりＡちゃんは反応しなかった。仕事に行かないといけないお母さんは、Ａちゃんを私たちに預け、職場へ向かうため門を出ていかれた。Ａちゃんはお母さんを追いかけて門を出ようとした。私は「お母さんがよかったな。お母さん行って嫌やったな。」と言いながら、Ａちゃんが門を出ないように腕を持った。Ａちゃんは「もう！！」と私の腕を振り払おうとし、地面を強く踏みつけた。『お母さんがいい！保育園はいや！』の思いが見えるが、私はお母さんの仕事を優先し、お母さんの姿が見えなくなったのを確認して腕を離した。Ａちゃんは「もう！もう！もう！」と怒りを露わにする。私は「ごめんな。お母さんがよかったな。」と言って、Ａちゃんの気持ちが落ち着くのを待つことにし、クラスが気になるので部屋に出入りしながら、少し離れた所から様子を見ていた。Ａちゃんの好きなかるたを見せてみるが、うつむいて拒否。

数分が経った頃、差し出した私の手に近寄り身体を寄せてきた。「あたたかいお部屋に入ろう」の言葉にＡちゃんは靴を脱いで部屋に入ってきた。

（考　察）

年明けから登園を度々嫌がることがあったので、『今日も保育園が嫌なんだな』と、私はいつものことと捉え、Ａちゃんの「保育園はいや、おかあさんが良い」という気持ちを、心から受け止めていなかったと思う。気持ちを受け止めていたら、「保育園いややな～。お母さんが良いよね」と言葉がけしていたと思うが、Ａちゃんの気持ちをないがしろにし、気持ちを受け止めることなく「寒いな。」と切り出した。『なんでそんなこというん？ぼくはおかあさんがいいねん。せんせい、わかってるやろ？』という思いを、Ａちゃんは視線を逸らせたり反応しなかったりすることで、表現していたのだと思う。しかしその時はその表現にも気づいていなかった。

お母さんが、Ａちゃんの好きな遊びでお部屋に入るよう誘いかけたのは、“仕事に行かなければならないことと、それでＡちゃんが気持ちを切り替えてくれたらホッとするのに”というＡちゃんへの対応に困っている気持ちが入り混じっていたのだろうと想像する。Ａちゃんは「ぼく…」と言葉を出している。この続きに何が言いたかったのか考えてみると『保育園いや。おかあさんが良い。ぼくのきもちをわかってよ』だったのではと思う。でも私はＡちゃんが言葉を飲み込んでいることにも気づこうとしなかった。“登園を渋るのはいつものこと。彼のこだわり”と、勝

手に決めつけていたからだと思う。

また、朝のお母さんの状態からしんどさを感じていたのにもかかわらず、お母さんの気持ちも受け止められないまま職場へ向かわせてしまった。それは、お母さんのしんどさを受け止めきれないのではないかという不安から避けていたのだと思う。

Ａちゃんはしばらくたってから、部屋に入ってきた。差し出した手に近寄り、身を寄せてくれたという彼自身の切り替えにホッとしながらも、あきらめではなかったかと不安にもなる。

Ａちゃんやお母さんの気持ちを一度も心から受け止めなかったのは、私自身の弱さだと気付いた。反省と同時に、今後Ａちゃんの気持ちやお母さんのしんどさをどれだけ受け止め、一緒に考えていけるのか…と大きな課題を実感している。

聖書：

そして、一人の子供の手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて言われた。「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。」

（マルコによる福音書９：36～37）

＜“エピソード記述”公募のお知らせ＞

※　今回のエピソードは、2016年１月に実施された「2015年度スキルアップ研修会」参加者の中から、当日の研修会で書かれたものを掲載しています。

※　「日本キリスト教保育所同盟　ミッションステートメント（使命の宣言）」の「小さな解説書」に「（５）今後の進め方」として、“エピソード記述”を順次掲載することを提案しています。

※　“エピソード記述”は日常での出来事を記述し、自らの保育を振り返るという優れた保育の省察方法です。「山びこ」で皆さまと共にシェアしながら、保育の質の向上を目指しましょう。

※　加盟園の皆さまからの“エピソード記述”をお待ちしています。

「山びこ」編集部　ぶどうの木保育園内　〒614－8362　京都府八幡市男山美桜６－５
TEL（075－982－9013）/FAX（075－874－2500）＜budounokihoikuen@diamond.broba.cc＞

「♫海や森、空も清めば、わが心はヤンバルの地に♪」パート１

辺野古ゲート前からこんにちは　高垣喜三

こんにちは。はじめまして、沖縄県国頭郡本部町瀬底在住の高垣喜三と言います。

本部町と言いましてもいったいどこや？と言う方がほとんどだと思いますが、沖縄島の北部（沖縄ではヤンバルといいます。）で太平洋と反対側、「東シナ海」に丸く突き出した半島、「美ら海水族館」のあるところと言えば「はーん」と思われる方もいるでしょう。

2012年５月に京都から引っ越してきてまる四年が過ぎました。

この夏12回目を迎える京都八幡のぶどうの木保育園の「沖縄平和キャンプ」で最も深いつながりのある伊江島「わびあいの里」反戦平和資料館「ヌチドゥタカラの家」。沖縄、日本のガンジーとたとえられ、14年前101歳で亡くなられた阿波根昌鴻さんの反基地土地闘争平和運動の精神と記録が凝縮されている施設。現在その遺志を受け継がれた謝花悦子さんが子ども達に平和と命の大切さをやさしく語ってくださる。この平和の拠点ともいえる「わびあいの里」の少しでものお手伝いを通じて人生のやり残している『宿題』が出来たらと、そして保育園で主任として園長たちと共に平和キャンプを創り出してきた妻は、今度は沖縄での受け入れ側としての役割を心に沖縄へやってきました。

この間、沖縄県民の声を完全に無視する形で米軍の欠陥機ＭＶ22オスプレイの普天間基地への強行配備。

1997年の名護市市民投票の勝利をはじめ一貫した新基地反対のたたかいの中で止めてきた辺野古新基地建設。県民への約束を裏切り新基地建設のための埋立承認を行った仲井真前知事。2014年７月からの辺野古新基地建設への着手強行。名護市長選での「海にも陸にも基地は造らせない」稲嶺市長の再選。名護市議会選挙での基地反対派の勝利。知事選での新基地反対を掲げオール沖縄での戦いに勝利した翁長さん。そして衆院選での沖縄全４区での完全勝利。翁長知事による埋立承認の取り消し。にもかかわらず県警機動隊や警視庁機動隊まで動員し辺野古工事用ゲート前で身体を張って徹底した非暴力で反対、抵抗する県民市民の声を暴力をもって排除し、そして海上ではボーリング調査に反対するカヌーや抗議船を海上保安庁「海猿」を動員し、船を転覆させ、海中に抑え込み水を飲ませるなど殺人まがいのことを繰り返し、工事を進めようとしてきた政府防衛省　沖縄防衛局。

多くのけが人や逮捕者を出しながらも屈せず続けてきた辺野古、大浦湾での海上行動やキャンプシュワブゲート前での座り込み行動はもうすぐ丸２年を迎えようとしています。

現場での闘いと、名護市長や沖縄県知事のあらゆる行政手段を使った抵抗は裁判闘争に発展しながらも、手詰まり状態となった政府は「和解」と言う名の下の工事の中断を余儀なくされることとなりました。すなわち時計は翁長知事が一旦仲井真前知事によって承認された辺野古埋立を取り消したところに戻ったのです。

この原稿を書いている時点ではいっさいの工事車両や、資材の搬入はストップしているし、海上ではいまだにボーリング調査が完了しないままになっています。詳しい経過は抜きにして、ホントにあっという間に過ぎ去った４年でした。

話が後先になりますが、「山びこ」編集部より原稿依頼を受けてクリスチャンでもなく、保育者でもな

いわたしは大きな戸惑いを感じながらこの原稿を書いています。でも、沖縄・辺野古の状況を全国の保育士に知ってほしいとの思いからの依頼でした。そしてもちろん子どもの命を育む保育士の仕事にとって平和と人権は瞳のように大切にしなければならないものです。今この日本で、戦争への道が開かれ、また命よりも金という政治が横行する現在、沖縄そして原発を巡る状況にしっかりと目を向けることの大切さはその通りだと思います。

さあ、そこではたして私にこの貴重な紙面を使っていかほどのことがお話しできるのか、と言うよりおこがましさが先に立って手が動かないのです。

虐げられ続けてきた沖縄の歴史、先の戦争において本土防衛と天皇の保身のための捨て石とされ、時間稼ぎのため住民をも巻き込み唯一地上戦を経験し、日本軍からも銃剣を向けられ殺され、ガマでの集団死を強制され、住民の4人に一人が亡くなった沖縄。戦後も日本の米軍占領からの独立と引き換えに米軍に売り渡され、無国籍状態の中で米軍の「切り捨てごめん」の横暴をうけ、復帰後も米軍車両や戦闘機が暮らしを脅かし、決して戦後と言えない沖縄。

「本土メディアが意図的に隠す沖縄の歴史と現状…無関心こそ平和の敵」

そんな歴史を体験し、あるいは追体験しているオジイやオバア達の思いは到底お伝えすることは不可能だと思うのです。だから皆さんには是非一度沖縄の歴史を学んでいただきたいと思います。なかなか語られることの無かった沖縄戦の実態が今手記として発行されています。

でも、沖縄に移り住み、辺野古の新基地反対の闘いに参加しているからには、自分が見聞きし感じたことを、本土のメディアが意図的に沖縄の現状を隠している現在、つたない言葉でも伝える責任があるのかとも思います。

冒頭でも書きましたように現在辺野古の新基地建設は止まっています。と言うよりボーリング調査すら終わっていないのです。しかし政府はあくまで辺野古に作るとしています。再開のチャンスを虎視眈々と狙っています。

平和とは程遠い、人権は蹂躙(じゅうりん)され、地方自治や民主主義は事沖縄に対しては無視されている現状、にもかかわらず日本のどこよりも平和憲法の実現のために戦っている沖縄。辺野古のたたかいはその先端に位置するものでしょう。今後の動きなど次の機会にまた報告させていただきます。

この原稿を書いているとき、またもや基地あるが故の許しがたい残忍な事件が起きてしまった。もう、沖縄は我慢の限界を通り過ぎています。

最後に、休日には子ども連れで辺野古の闘いに参加している沖縄の保育士さんの声を紹介します。

『涙が止まらない。今、あの子の親は、どんな気持ちで夜を過ごしているの？

成人式を迎えた娘を、これからの人生を、こんな形で終えるなんてだれが思っていた？子どもたちに添い寝をしながら、今日の事件の話をした。ニュースで行方不明の女性の事は子どもたちも知っていたので、殺された事実を知り、かなりショックを受けていたと同時に「おかあさん、本当に外歩くの怖い！」と、末っ子が私の腕にギュっとしがみついた。

もう嫌だ。もう限界。どうか、沖縄を助けて下さい。これ以上、悲しみの歴史を重ねたくない。

戦闘機が飛び交う空。いつオスプレイも落ちるかわからない。基地の被害で汚染されまくりの土地。

そして、今でも沖縄のあらゆるところに不発弾も埋まったまま。罪の問えない事件事故。そして、暴行事件。殺害。軍で金もらっているからとか、仕事だからとか言うのはいいけど、大切な人の命を奪われてもそんなこと言えるのかな？人として、ダメなものはダメって！嫌なことは嫌って！！言わなきゃ！この歴史はこれからも続くんだよ！！！ごめんだけど、本気でもう無理。』

事務局だより

2016年度日本キリスト教保育所同盟の理事会、総会が５月９日、横浜YMCAにおいてもたれ、(1)2015年度事業報告 (2)各地区報告 (3)第57回夏季保育大学 (4)2015年度会計決算報告 (5)融資金会計報告 (6)東日本大震災支援金会計 (7)「熊本地震」被災保育園訪問など諸報告が承認されました。また、(1)2016年度事業計画案 (2)2016年度会計予算案 (3)第58回夏季保育大学 (4)第59回夏季保育大学などについて協議され承認されました。

☆　新地区理事について

四国地区　　野町　文江さん（花の宮保育園）
九州地区　　末瀬喜美子さん（光の子乳児保育園）
沖縄地区　　玉城　智彦さん（みつる保育園）

☆　バングラデシュ支援事業について

CHCP（現地NGO）事業活動縮小に伴って支援を終了し、新しいカウンターパートとして「ワールドコンサーンバングラデシュ」と協力体制を新たに構築する。本年度はその準備の年とし６月12日～20日、新井純理事長、川上信事務局次長、堀井忠国際担当を現地に派遣する。

☆　第58回夏季保育大学について

日　時　　2016年８月24日（水）～26日（金）
場　所　　松島一の坊（宮城県松島）
主　題　　「いのちに寄り添い、地域に生きる～被災地の現状と取り組みに聴く～」

☆　保育研究会（委員７名、事務局２名）について

第13回研究会　２月22日　於．京都市下京区青少年活動センター（出席者８名）

「ミッションステートメント」を主題に各地区、保育園で行われた計７回の研修会について、森本宮仁子委員より報告を受けた後「キ保同が目指す保育」について協議した。次回第14回の研究会を６月30日東京で行う。

☆　第59回夏季保育大学について（担当　九州地区）

日　時　　2017年８月23日（水)～25日（金）
場　所　　ハウステンボス　ウインズ佐世保
主　題　　「光・いのち・輝き」

☆　2015年度下記の２ヶ園の保育園が新たに加入されました。現在加入園数は224ヶ園。

［九州地区］ひかりの子保育園、光の子グレースこども園。

☆　予　告（ご予定ください。）

第57回夏季保育大学	2016年８月24日～26日	於．松島一の坊
園長研修会	2016年10月17日～18日	於．未定
中堅保育士研修会	2016年11月９日～11日	於．横浜
スキルアップ研修会	2017年１月24日～25日	於．コミュニティ嵯峨野
理　事　会	2017年２月13日～14日	於．未定

☆「山びこ」編集部　ぶどうの木保育園内　〒614-8362　京都府八幡市男山美桜６－５☆
TEL（075）982－9013　FAX（075）874－2500　<budounokihoikuen@diamond.broba.cc>